186.

乳房エコーグラム（嚢胞）の鏡面形成について

神奈川県予防医学協会

○田中 耕策 萩原 明
tanaka kousaku nagiwara akira

目的 我々は乳房のエコーグラムで嚢胞内に鏡面を形成する症例に遭遇した。これら鏡面を形成する嚢胞を穿刺すると、すべて血液であった。そこで鏡面形成の成因と適切な検査手技との検討をすることとした。

方法 実験手術用ゴム手袋と血液で実験モデルを作り、エコーグラムを検討する。臨床のエコーグラムを検討する

1) fig1~fig3に示すような実験モデルを作る。

血漿と血球に分離し手袋の指先に入れ口を固くしはり漏れないようにする。

2) fig4のように脱気水中に沈め、エコーグラムを観察する。

結果 fig1~fig3のように分離した血液は、多少の動きでは分離したままで境界ははっきりしている。

このエコーグラムはfig5に示し、臨床例に近似である。

fig6~fig9に臨床例を示す。

fig8, fig9は同床例でfig8撮影後、立位で触診したのち再度撮影したのがfig9である。注目すべきは、fig8の左の小嚢胞はfig9でも鏡面を形成しているか右の大嚢胞は、fig9に於て実質を示すようなエコーパターンが観察できる。小さな嚢胞は、多少の動きで分離したままであるが大きくなると混ざり合うことが理解できる。

考察 上記によ

り、嚢胞内に出血

する場合、血漿と

血球に分離し鏡面

を形成し、日常動

作で分離したまま

か否かは、その大

きさによることが

わかった。

検査前の安静は必

要であると考えら

れる。